

暫は場所前から西神門らと優勝候補に挙がっていたが、期待通りの活躍を見せた。まさに将来の大関、横綱をも狙える逸材である。今回は幕内昇進こそならなかったが来場所も断トツの優勝候補だろう。

優勝には届かなかつたが、上位では黒雲海が8勝を取って新入幕を勝ち取った。二枚目という幕内が見える位置で期待以上の活躍でチャンスをものにしたのを見事である。来場所の新入幕は3人と思われるが、3枚目は西安が7勝を上げ昇進を決めた。春日根部屋からは待ちに待った千代鈴門に次ぐ幕内力士の誕生である。七枚目の西神門は8勝3敗の好成績を上げたが昇進にはあと一歩届かず。



黒雲海○(引き落し)●剣将

新十両では4人が勝ち越しを決め、中でも吳翔龍は5連敗の絶体絶命の窮地から圧巻の6連勝で見事勝ち越し。桐壺親方も驚く粘りで十両の地位を守った。若虎影と夢ノ天は残念ながら負け越したのが八枚目で2勝9敗の電幕と、十枚目で1勝10敗と大敗を喫した釗ノ城の二人。電幕は千秋楽に勝てば残留が決まったのだが冬牡丹に敗れてしまった。再度幕下からの再起に期待したいところだ。

このところ毎場所のように勢いのある若手が十両を席巻してきていて、中堅どころでも一気に飲み込まれかねない。十二枚目の冬牡丹も今場所は辛うじて陥落は免れたが、来場所は試練の場所となりそうだ。(勝間田)

幕下は苦勞人・磯自慢

優勝争いは西渡海と磯自慢の一騎打ち。大方の予想を覆し磯自慢が西渡海を上手く攻めで最後は押し倒しに下し幕下2場所目での優勝を果たした。「磯自慢が勝っても何の面白みもないよな」と揶揄される中、「やった勝ったあ」と歓喜の磯ノ海親方。5勝の

うちの4勝が押し倒しで右からの攻めが冴えわたった5日間だった。

敗れはしたが西渡海は一場所での復帰が決定。磯自慢も優勝を手に進んだ。しかしながら、育成会で6年余りもくすぶっていた力士が幕下で一気に開花しその上で優勝もしたことに「どうしちゃったんだろうね」と師匠の磯ノ海親方本人が一番ビックリしていた。これが単なる今場所だけの勢いなのか、たまたまなのかは来場所の土俵で明らかになることだろう。



磯自慢○(押し倒し)●西渡海

三枚目の英吹雪が蚕国を首投げで破り価値ある4勝目を上げ昇進を確実にした。在位3場所での順調な出世で、英笹以外伸び悩んでいる英部屋からの福音となるか、期待が寄せられるところである。他には吉備の里の昇進が濃厚。今回が3度目の返り咲きとなるがこれまででは何故か十両で勝ち越すことが出来ずにいるので、そろそろ定着したいところだろう。

朝日松部屋は駒波も昇進濃厚。よもやの昇進の可能性に「駒波入るの？」と思ってもいなかかった朗報にほろ酔い気味で喜ぶ朝日松親方。三代目朝日松部屋としては初の関取誕生だ。

富士浪部屋から久々の関取誕生かと期待された蚕国だったが昇進はならず。来場所こそは念願の十両入りを叶えてほしいところだ。

桐壺部屋の5力士は全員が無難に勝ち越しを決めた。今場所は優勝争いは加わることには出来なかったが次は桐壺部屋同士での決戦なんてこともあるかもしれない。何にしろ、磯自慢が今場所優勝を勝ち取ったように、他の力士も俄然優勝を目指し目の色を変えてくたえのある相撲に期待したいところ。

幕下尻の福添が廃業となった。今や幕内、十両に在籍する九十九部屋だが、幕下に上がってきたあたりまでは、福添も他の力士と実力的には遜色ない感じに見えたが何故か関取昇進には至らなかった。他に桃山部屋の桃天海も福添と同じく十両昇進叶わず23歳という若さでの廃業となった。(勝間田)

三段目、序の口

三段目の千秋楽は四日目で全勝と巨鵬と友砂部屋の巨鵬との一騎打ちとなった。立ち合いから激しい差し手争いを見せどちらも一歩も引かない右の押さ付け合いの攻防から、土俵中央で体勢を立て直して一瞬の隙をついて芽ヶ崎が左を差し込んで寄り切って優勝を飾った。芽ヶ崎は第150回初土俵、育成会を5場所での通過となった。



巨鵬●(寄り切り)○芽ヶ崎

他には虎麒麟と同期の鹿麒麟、勝間田部屋の小兵島内、幕下から陥落したもの1場所ですでに復帰の椿富士あたりの幕下昇進が予想される。

序二段は4連勝を決めた大松戸部屋の松山と英部屋の英ノ森との二力士による千秋楽決戦となった。松山は以前前錦風親方が若手の期待株と絶賛していたが、それが災いしてかその後低迷、ようやく復活の兆しが見えてきたところ。一方の英ノ森も若手が育っていない英部屋の激突は英ノ森が胸を合わせるとすぐ様勝を決めた。



英ノ森○(寄り切り)●松山

先場所序の口優勝した場所でも大いに期待された「小蛮勇」こと富岳だったが千秋楽を前にまさかの2勝2敗。楽日によく勝ち越え意を決めると言う不本意の場所となった。来場所での巻き返しが期待される。



富岳○(押し倒し)●大友



十勝桜○(押し倒し)●煉万山

人事往来

また山桜部屋後援会の強い要望によって再出場となった十勝桜が千秋楽に勝ち越しを決めた。(鹿賀戸)

- 【定年退職】景松(元関脇 鼓里)
- 鳴田(元小結 昂の島)
- 秋田(元前頭 伊達)
- 大響(元前頭 伊達)
- 福錦(元前頭 古都ノ海)
- 伊勢山(八重湖) ← 鳴駒
- 五所関(左乃沢) ← 秋田
- 支那虎(元大関) ← 伊勢山
- 若劍(元関脇) ← 伊勢崎